

まちのわだい



岸本駅前活性化イベント

岸本きないや祭

岸本きないや祭が、11月16、17日の2日間開催され、岸本公民館や岸本駅前通りは、大勢の人で賑わいました。

今年で28回目を迎えるこの祭りは、鎌や鍬などの農具を販売する吉長市が始まりですが、現在では駅前や岸本公民館などで、様々なイベントが開催される祭りに変化しています。

岸本公民館や町民岸本体育館では、保育所児童、小中学生の作品や公民館教室・サークルの作品などが展示されたほか、岸本図書館による絵本の読み聞かせが行われました。また、地域の子どもたちによる「ごどもみこし」が会場内を練り歩き、多くの来場者から声援を受けていました。

17日は、時折雨が混じる天気となりましたが、会場周辺は多くの来場者で賑わいました。



たこ焼きを買い求める来場者



キッズコーナーでのパトカー体験搭乗

豊かな森林を未来につなぐために

第14回森林シンポジウム

第14回森林シンポジウムが、12月7日、岸本公民館で開催され、町内外から約100人が参加しました。

今回は、林業職場体験発表や「迫るナラ枯れの現状」をテーマにパネル討議を行い、森林保全を目指す取り組みについて意見を交換しました。

林業職場体験発表では、岸本中学校2年生7人が丸山生産森林組合での林業職場体験の感想を発表しました。

パネル討議では、鳥取大学農学部 山本福壽教授、元林業試験場室長の西垣真太郎さん、大山横手道上ブナを育成する会の古岡淳一事務局長、鳥取県西部総合事務所 所林業振興室の森勇樹室長の4人が、新日本海新聞社西部本社 寺谷寛代表のコーディネーターにより、各立場からナラ枯れ被害の現状やその対策などについて討議を行いました。



ナラ枯れについて説明する元林業試験場室長の西垣真太郎さん



職場体験を発表する岸本中学校の生徒

平成25年12月伯耆町区長協議会定例会

自治会相互の連携と親睦を図ると目的に設置された伯耆町区長協議会の定例会が、12月6日、農村環境改善センターで開催され、各集落の区長などが参加しました。

この日は、定例会に先立って、日野町の若手農家、高田昭徳さんを招き、まちづくりについての講演会が行われ、区長たちは熱心に聞き入っていました。

続いて定例会では、役場各担当課長が、今後の事業説明や提出物についての説明を行いました。主なものとしては、平成23年の調査で、住宅用火災警報器の設置率が、伯耆町は鳥取県の平均を下回っていることを受け、火災予防のため、各世帯に台所用火災警報器の無料配布を行う事業の説明がありました。

その後、平成25年区長協議会の事業実績及び収支決算見込みなどについて審議され、質疑、討論を経て承認されました。



町から説明を受ける各集落の区長



「よそ者と地域」という演題で、農業による地域おこしについて語る高田さん

昔ながらの農法に学ぶ

八郷小学校収穫祭

今年の米の収穫を祝う収穫祭が、12月5日、八郷小学校で行われ、清山集落の住民と一緒に、餅つきを行いました。

この日の収穫祭には、八郷小学校の児童と清山集落の住民合わせて18人が参加し、機械でついたものを含め、16kgのもち米をつきました。

初めは慣れない杵に苦戦していた児童たちですが、清山集落の人に教えてもらいながら餅をついていくうちに、杵さばきもつまくなつていきました。

今回の餅つきに使ったもち米は、5年生の児童が、清山集落のみなさんの協力のもと、田植えや稲刈りを一緒に行い育ててきたものです。八郷小学校では、昔ながらの農法で米を栽培することで、農業の大変さや、食べることに感謝の気持ちを育てることを目的として、毎年5年生が稲作を体験し、米作りの大切さを体験しています。

ついた餅を丸め終わると早速試食をし、児童たちは美味しく餅をほおばっていました。



よいしょ!よいしょ!と掛け声に合わせて、餅をつく児童



丸めた餅にきな粉を付ける作業